写真提供：松竹株式会社

生誕120年 没後60年

小津安二郎展

OZU YASUJIRO

2023年4月1日［土］－5月28日［日］

［開館時間］9:30～17:00（入館は16:30まで）　［休館日］月曜日（5月1日は開館）

［観覧料］一般800円（600円）、65歳以上・20歳未満及び学生400円（300円）、高校生100円（100円）、中学生以下は無料　＊（　）内は20名以上の団体料金

［主催］県立神奈川近代文学館、公益財団法人神奈川文学振興会　［編集協力］築山秀夫

［特別協力］オフィス小津、松竹株式会社

［協力］鎌倉文学館、公益財団法人川喜多記念映画文化財団、公益財団法人江東区文化コミュニティ財団 江東区古石場文化センター

［後援］NHK横浜放送局、FMヨコハマ、神奈川新聞社、tvk

［協賛］筑摩書房、京急電鉄、相模鉄道、東急電鉄、横浜高速鉄道、神奈川近代文学館を支援（サポート）する会　［広報協力］KAAT 神奈川芸術劇場

横浜・山手 港の見える丘公園内

県立 神奈川近代文学館

Kanagawa Museum of Modern Literature

〒231-0862 横浜市中区山手町110　TEL 045-622-6666　https://www.kanabun.or.jp　［最寄り駅］東急東横線直通・みなとみらい線　元町・中華街駅6番出口から徒歩10分

新型コロナウイルスの感染拡大状況により開催日時等を変更する場合があります。

design: ogata design

神奈川文化プログラム MAGCUL マグカル

生誕120年 没後60年

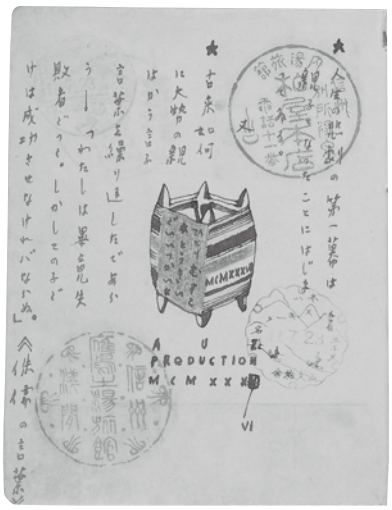
小津安二郎展

日本を代表する映画監督のひとり・小津安二郎（1903〜1963）は、日本の文化や社会事情を背景に、家族の日常、人生の悲哀などを、練り上げた脚本と〈ローポジション〉をはじめとする独自の撮影技法によって、細部にまでこだわり表現してきました。「小津調」と呼ばれるその作品世界は、国境を越え世代を超えて多くの人に愛され、評価され続けています。戦後は鎌倉に住み、『晩春』『麦秋』『東京物語』などの脚本を湘南の旅館・茅ヶ崎館で執筆、また、戦前から県内各地を撮影地とするなど、神奈川は小津映画にとって大変ゆかりの深い場所でした。今回の展覧会では、小津の生涯とともに小津映画の変遷を辿り、神奈川県に残した小津の足跡にも焦点を当てます。

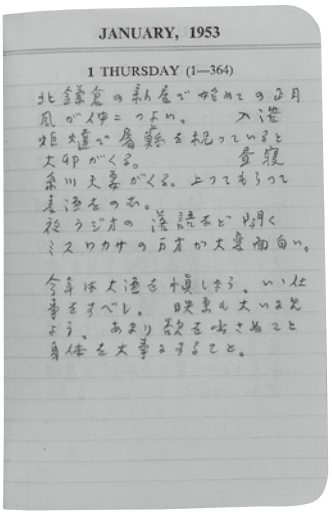
映画とともに歩んだ小津の人生。本展が小津映画への新たな入口となれば幸いです。

ピケ帽　小道具係にダース単位で作ってもらい被っていた。暑い現場で汗止めの役割があったという。築山秀夫氏蔵

『晩春』スチール　1949年（昭和24）9月公開　原節子（紀子）と笠智衆（父・曾宮周吉）。広津和郎の小説「父と娘」をもとに、父をひとり残して嫁ぐ娘と、送り出す父の心情を描いた。戦後の小津作品を方向付けた一作。©松竹



『一人息子』台本から　1936年9月公開　小津の劇映画で最初のトーキー作品。製糸工場で働く母を象徴する糸巻と、映画冒頭に引用する「侏儒の言葉」（芥川龍之介）の一節を書きつけている。川喜多記念映画文化財団蔵



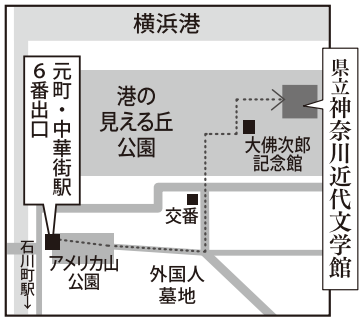
JANUARY, 1953

1 THURSDAY (1—364)

北鎌倉の新居で始めての正月
風が伸びつよい。　入浴
炬燵で屠蘇を祝っていると
大仲がくる。　貴寝
糸川夫妻がくる。上ってもらって
麦酒をのむ。
後ラジオの漫読ど聞く
ミスワカサの百首が大変面白い。

今年は大酒を慎しまう。いい仕
事をすべし。映画も大いに見
よう。あまり酔を出さぬこと
身体を大事にすること。

日記　1953年1月1日　母とふたり、鎌倉市に転居して初めての正月を迎えた。酒をこよなく愛する小津だが、「今年は大酒を慎しまう。いゝ仕事をすべし」と自戒を記し、この年『東京物語』を製作。小津家蔵・鎌倉文学館寄託



※駐車場がありませんので、公共の交通機関等をご利用ください。

〈東急東横線直通・みなとみらい線〉元町・中華街駅下車6番出口（アメリカ山公園口）から徒歩10分
〈バス〉・神奈川中央交通バス⑪系：桜木町駅〜保土ヶ谷駅
・横浜市営バス⑳系：桜木町駅〜山手駅
・観光スポット周遊バス「あかいくつ」
いずれも「港の見える丘公園前」下車、徒歩3分
〈JR根岸線〉
石川町駅下車 元町口（南口）から徒歩20分

本展記念イベント

詳しくはホームページ等でご確認ください。

・①〜③＝要事前申込。お電話（045-622-6666）またはホームページの申込フォームで、お名前・電話番号・希望日・人数をお知らせください。料金は当日のお支払い、先着順で定員になり次第締め切ります。

・会場：①〜③＝展示館2階ホール、④＝展示館1階エントランスホール

①トークと講演「岡田茉莉子さんに聞く——小津監督の思い出」　4月15日（土）　14:00〜
出演：岡田茉莉子（女優）、平山周吉（雑文家）　料金：一般1,500円（友の会会員1,200円）

②上映会『晩春』　4月29日（土・祝）、30日（日）　各日13:30〜　1949年　松竹　モノクロ　108分　デジタル上映
監督：小津安二郎　広津和郎作「父と娘」より　脚本：野田高梧、小津安二郎　出演：原節子、笠智衆ほか
料金：一般800円（友の会会員600円）

③上映会『秋日和』　5月6日（土）、7日（日）　各日13:30〜　1960年　松竹　カラー　128分　デジタル上映
監督：小津安二郎　原作：里見弴　脚本：野田高梧、小津安二郎　出演：原節子、司葉子、岡田茉莉子ほか
料金：一般800円（友の会会員600円）

④スライドトーク（職員により展示説明）　会期中の毎週金曜日14:00〜　無料（要展示観覧料）・申込不要

このほか、5月13日（土）に小津監督無声映画上映会（活弁：澤登翠、解説：築山秀夫）を予定しています。

次回展示

企画展「本の芸術家・武井武雄展」
2023年6月3日［土］—7月23日［日］

小津ごのみ　中野 翠

好き嫌いをよりどころにして

小津映画には監督の美意識・趣味が溢れている。ファッション、インテリア、雑貨といった表層的なものから、俳優・女優の顔かたち、仕草や口調や会話の間にいたるまで。原節子、三宅邦子、笠智衆、佐分利信、東野英治郎、斎藤達雄と名を連ねるとおのずと小津映画ムードが湧いてくる。映画評論家の見落としがちな、監督の好嫌の感情に注目した、画期的な小津論。【解説：与那原恵】

ISBN：978-4-480-42820-2　定価924円（10%税込）　ちくま文庫

監督 小津安二郎〔増補決定版〕　蓮實重彦

「残された作品の画面に何が具体的に見えるか、そしてそのイメージが、見るもののフィルム的感性をどのように刺激するかを論じてみたい。つまり、現実のフィルム体験として生きうる限りの小津安二郎の作品について語ってみたいと思う」（本書序章より）

人々がとらわれている小津的なるものの神話から瞳を解き放ち、その映画の魅力の真の動因に迫る画期的著作。小津の生誕百年（2003年）を機に旧版へ3章を増補した決定版。名キャメラマン厚田雄春と『美人哀愁』の主演女優井上雪子へのインタヴューほかを併録。

ISBN：978-4-480-09766-8　定価1540円（10%税込）※電子書籍も配信中　ちくま学芸文庫